

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立玄洋高等学校

Table with 4 main columns: 自己評価 (School Operation Plan), 学校関係者評価 (School Stakeholder Evaluation), 評価項目 (Evaluation Items), and 評価 (Evaluation Results). It details various school activities, goals, and the feedback from stakeholders.

生徒指導	遅刻・欠席を減らすことによる基本的な生活習慣の確立を行う。また、リフレッシュタイムをとおして、教員と生徒の信頼関係を深めていく。	遅刻・欠席の家庭との連絡を密にし、毎日の基本的な生活習慣の確立に努める。	A	A	A	遅刻・欠席は依然として多いが、登校時や校内での挨拶は昨年に比べて良くできるようになった。生徒と教員間のトラブルも減ってきており、信頼関係が高まりつつあると感じる。いじめが疑われる事案にも毅然として対応した。	A	なし
	授業規律の確立を行う。	保護者（PTA）と協力し、朝の登校指導や生徒間、生徒教職員間の日々の挨拶を通して、コミュニケーション能力を高めさせる。 リフレッシュタイムを通して、生徒一人一人が校内に相談できる教員を複数もつことができるようにし、信頼関係の構築やいじめを見逃さない仕組みづくりを行う。	A					
	部活動の活性化を図る。	教務部と連携して、授業や集会時における礼法指導の統一を図り、挨拶の発声を徹底する。 授業を受けるに当たり、身だしなみを整えることを習慣化させる。 指導に困難を要する生徒には複数で当たり、その後の教師間による情報の共有を密に行う。	A					
	生徒が安心・安全で健康に学校生活を送れる環境づくりをする。	身体計測や健康相談で自身の健康状態を知り、感染症予防対策（場面に応じて、手指消毒・マスク着用・換気等）の啓発や保健教育等を通して自らの健康につながる力の向上を図る。 いじめアンケートを活用し、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に努め、個に応じた指導・生徒理解のもと安心・安全な環境づくりをする。 学校保健委員会で情報共有・意見交換を充分に行い、学校医や地域と連携しながら学校保健活動の充実を図る。	A					
保健	校内組織や外部機関（SC、訪問相談員）との連携を強化し、発達や心に課題を抱える生徒への支援を充実させる。	学年や部活動、特別支援教育コーディネーターと連携し、支援（個別の支援計画や合理的配慮を含む）が必要な生徒の把握や、職員内での情報共有に努める。 教育相談委員会（年間12回）での情報共有や、生徒指導課のリフレッシュタイムとの連携も行うことで教育相談機能を充実させ、学校全体で生徒を見守る体制作りを図る。 SCや訪問相談員との連携を強化し、生徒に寄り添った支援を適宜できるようにする。	A	B	B	引き続き生徒が安心して、安全に学校生活を送ることができる環境を整える。 さらなる校内組織や関係機関との連携を強化し、課題を抱える生徒への支援を充実させる。 掃除のあり方（全員清掃・当番清掃、時間等）を審議し、みんなで協力して掃除をする雰囲気のある構築を図る。	B	なし
	「みんなで協力して掃除をする」状況を作り、効率の良い清掃を行う。	美化委員会と連携した在庫管理を随時実施し、掃除用具の過不足がないようにする。 当番制清掃を充実させ、清掃への意識を高めながら効率の良い清掃活動を図る。 ボランティア清掃（年間12回以上）の充実、部活動にも協力を仰ぎ、学校全体を洩れなく清掃できるようにする。	B					
	基礎学力の定着を図るとともに自身の適性や能力を自覚させ、目標に向け学習に取り組めるよう支援する。	早期・長期休業中等の時間を活用して、目標を明確にした講座等の学習支援を実施し、学力の向上及び学習習慣の定着を目指す。 基礎力診断テスト・実力診断テスト等に向けた指導を、組織的に取り組む。また、自己の学力の課題を見出し、その解決に向けて努力させ、基礎学力の定着と進路実現につなげる。 九産大・福岡大・西南学院大に合計10名以上を合格させることができるように、向上心をもって学力の構築に向けて努力させる。	B					
	多様な進路を見据え、生徒のコミュニケーション能力等を高め、有用な人材の育成に努める。	進路学習や地域貢献活動などをとおして、他者の生き方や社会の多様な課題に気づかせ、その解決に向けて社会に役立つ人材のとしての自覚を養う機会を設ける。 進路説明会やアカデミックインターンシップを通して、上級学校での学びの特長を体験することにより、進路実現への動機づけをはかる。	B					
進学	進路実現に向け、保護者・教員間の連携を図り、学力・自己表現力を身につけさせる指導を行う。	担任・生徒・保護者の連携を密にして、生徒の適性や資質・能力に合致した進学の実現を行うように促す。また、奨学金に関する情報提供を適宜行い、早期より進路実現に向け準備する。 学校推薦型入試や総合型選抜入試等の多面的評価に向けて十分な準備をさせる。また、生徒の志望校合格に向けて、志望理由書や小論文の作成の指導や面接指導を効果的に行う。	B	B	B	1・2年生で、上級学校に進学するということを深く学ぶ機会を多く設け、3年でよいスタートを切れるよう学年全体で進路指導を展開していきたい。基礎学力定着についての授業を軸に徹底させていきたい。 1学期の進路指導を充実させる。その過程で、進路実現に向け、一人一人が、前向きな意識で対策に向かわせるようにしたい。 夏季講座の志望理由書作成指導は、2学期以降に本番を迎える生徒たちに有効であったので、次年度も継続したい。2学期の学校行事などもふまえた上で年内入試合格に向け、指導する体制をつくっていきたい。 ・スタディサプリの導入により、定期的な特別講座の開催を設定していく。 ・担任・学年と連携し、生徒との面談を重ね、早めの進路決定を促す。 ・受験申込や試験会場の確認の再徹底を行う。	B	卒業生が来て生徒に進路等の話す機会を増やして欲しい。（実際に自分の子どもが大学に進学を決めたので）
	地域に貢献する意欲と資質をもった生徒を教員や外部専門機関と連携を図りながら育成するよう努める。	1・2年生を対象に公務員特別講座の実施や説明会を実施し、公務員希望者を各学年5名以上に拡大する。また、部活動の加入やボランティア活動への積極的な参画を促す。 3年生公務員希望者を対象に、外部専門機関と連携を図り、ガイダンスや講座など計画的に行うことで公務員試験の準備をする。また、ボランティア活動など地域貢献活動への積極的な参画を促す。	B					
	進路適性検査や企業見学を通して、職業を知るとともに自己理解を深め、望ましい職業観を育成する。	発達段階に応じた適性検査を全学年で実施し、その検査結果の振り返りをおして自己の資質・能力や適性についての理解を深める。 就職の学校推薦の基準について全学年で周知させ、部活動や生徒会活動、学校行事やボランティア活動等に主体的に取り組ませる。 外部機関との連携を積極的に行い、職業観・勤労観を育成し、就職に必要な社会人基礎力を身に付けさせる。	B					
	インターンシップや社会貢献活動等の体験を通し、主体的に広く深く学び、自己の能力や適性に合致した確かな職業選択を行う契機とする。	生徒が希望する就職先を中心にインターンシップの受け入れ先を確保し、実施2か月前までに実習先を決定し、計画的に指導する。 外部機関と連携した総合的な探究の時間や進路セミナー等とおして、社会の一員としての自覚を育成する。 社会貢献活動に各学期に1回以上させることで、時間を守る・身だしなみ・敬語等の社会の一員としての自覚を育成する。	A					
就職	自己の将来像を展望し、進路に関する情報収集能力を育成しながら課題解決に具体的に取組ませ、進路実現を図る。	2年3学期から面談を行うことで、生徒理解に取り組み、適切な職業選択ができるように促す。 進路セミナー等のガイダンスを充実させ、2学期までに学校推薦による就職を志望する生徒に100%の合格を達成できるように支援する。 応募前職場見学や履歴書書き、面接練習等を学年と協力して計画的に行う。また、企業訪問を職員が協力して行うことで、事業所との信頼関係を充実させる。	B	A	A	1・2年生は働くことの意義について考えさせる学習機会を設定する。 3年生は就職試験に向けての履歴書書きや面接指導を計画的に行う。 ・社会貢献活動やインターンシップの事前事後指導を通して、社会人としての立ち振る舞いやマナーについての学習機会を定期的に設定する。 ・一人一人の進路実現を図るために、就職課と担任が連携を図り計画的に受験対策を行う。 ・面接指導や筆記試験（面接）対策指導を計画的に行い、就職試験に合格するために必要な力を確実に身に付けさせる。	A	学校紹介就職率100%は素晴らしい来年も達成してほしい。
	学習方法の指導を通して、知識を得ることの楽しさを引き出す。【向学】	学び直しの学習を活用し、中学校段階までの学習内容の完全定着を図るとともに、高校学習内容の基礎基本の定着を図る。 Chromebook等の効果的な活用や観点別評価を通して、生徒の主体的に学習に取り組む態度を向上させ、学力の向上を図る。	B					
	基本的な生活習慣の確立と高校生活の充実を図る。【礼儀】	欠席・遅刻を安易にしないよう指導し、チャイム席や各集会の際に「時を守る」ことを徹底する。出席率97%以上を目指す。 校則や通学マナーの厳守を徹底させるとともに、多くのボランティアへの参加を促す。 生徒の情報を密に交換して生徒の理解を深め、教師が挨拶など率先垂範を心掛け、生徒の規範意識を向上させる指導を行う。各担任が保護者や中学校との連絡を密に取り、生徒情報の共有を図る。	C					
	社会及び自己の未来を見据えて、自分に適した進路を選択する能力を育成する。【進取】	アカデミックインターンシップや地域貢献活動等の体験的な活動を通して、生徒の自己肯定感を高め、進路意識の向上を図る。 進路指導部と連携した総探の時間を活用し、各系統ごとの情報提供と分析を的確に行い、生徒の進路目標を確定させる。	B					
第1学年	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることで、基礎力診断テストでのD3の脱却と上層層の増加を図る。	基礎力診断テストの事前課題であるフアンウィークトライアルを授業や宿題で活用する。また、文Aクラスを対象に学びなおしの課題や小テストを実施して基礎学力を向上させ、D3を40%以内ににする。 安易な遅刻・欠席をしないよう指導し、チャイム席や集会に臨む態度を身に付けさせ、普段から始・終業時や校内での元気な挨拶や端正な身だしなみを促し授業に主体的に参加する態度を育成する。	C	B	B	基礎力診断テストの事前課題に取り組む時間が確保できず、D3は50%のままだった。来年度はスタディサプリを活用し、基礎学力を身に付けさせる。授業や集会に取り組む姿勢は改善されているので、指導を継続していく。 ・全体に対する指示では指導が届きづらい場面においても、個別の生徒対応を行い、規範意識の醸成に努めた。生徒指導事案においては指導課を中心に生徒・保護者との対話を通して対応することができたため、次年度も粘り強く対応していく。 ・アカデミックインターンシップも系統別で行われ、進路意識の醸成に繋げることができた。進路行事などグループワーク等に積極的に取り組む姿を見ることができ、今後の進路決定において良い方向に動いている。	B	なし
	中堅学年として生徒のリーダーシップを涵養するとともに、それを支える母校愛を醸成し、自律した集団を育成する。	学年テーマである「挑戦」に基づき、部活動や資格取得試験、ボランティアなどへの積極的な参加を促し、自己肯定感・自己有用感の育成に努める。 学年リーダーや修学旅行委員を組織し、学校行事や修学旅行、学年集会などを協議しながら運営していくことで、生徒の自己指導能力を高め、学校のリーダーを育成する。	B					
	系別に対応した教育計画を立て、生徒自らが自分に適した進路を主体的に選択できる能力を育成する。	系別に則した内容を提供できるよう進路指導部と連携を図り、進学セミナーやインターンシップ、公務員特別講座をおして進路意識の向上を図る。 総合的な探究の時間において、企業や地域の方々と連携を図り、生徒自身がテーマや課題を設定し、その目標に対して取り組むことで、自己理解と職業理解を深め、進路に対する広い視野を育てる。	A					
	最終進路を見据えた学力の向上と、授業に臨む姿勢・態度の育成を図る。	授業内での姿勢や挨拶の徹底、正しい言葉遣い、身だしなみの指導を常に行う。 教室内の環境整備を行い、学習面で基礎基本の徹底と授業に集中させる。 担任と教科担当、各分掌との連携を密に行い、生徒間の情報共有を徹底する。	B					
第2学年	教育活動全体を通して自尊感情を高め、最上級生として各々の個性を生かしてリーダーシップを発揮し、学校全体を牽引できる集団を育成する。	学校行事の成功を目指し、学年集会や諸行事の際に生徒の得意分野で主体的に活躍できる場を設定する。 学校全体を牽引できるリーダーシップ、フォロワーシップのみならず人間性を向上させる。 様々な場面で目標設定や振り返りを行わせ、共感的な人間関係を作り、自身の成長を実感させ、達成感を持たせる。	A	A	A	最大行事である体育大会を見据えて、日々指導してきた結果が、体育大会の成功に繋がった。生徒達は、自分の置かれたた立場を認識し、リーダーシップ・フォロワーシップを向上させ、人間性の向上に役立ったようである。また、その経験が、進路決定の際に自信に繋がって就職・進学試験に挑めたようである。 進路指導部と連携し、総探やHRを計画し生徒の進路実現に向けて指導できたことはよかった。また、担任や就職課・進学課、公務員対策における外部との連携ができ、生徒との面談・保護者の理解も得られ比較的スムーズに指導ができた。進路決定者がミスマッチではなかったことを期待したい。	A	なし
	社会人として必要な資質を身に付けさせ、進路実現を図る。	個別指導や個人面談などの個に応じた指導を行い、適切に進路を選択できるよう働きかける。 ボランティア活動への積極的な参加を促し、社会貢献活動をすることによる自己有用感を高める。 進路指導部と連携し、各系統に応じた情報提供を生徒・保護者にも行う。	B					
	最終進路を見据えた学力の向上と、授業に臨む姿勢・態度の育成を図る。	担任と教科担当、各分掌との連携を密に行い、生徒間の情報共有を徹底する。	A					
	教育活動全体を通して自尊感情を高め、最上級生として各々の個性を生かしてリーダーシップを発揮し、学校全体を牽引できる集団を育成する。	学校行事の成功を目指し、学年集会や諸行事の際に生徒の得意分野で主体的に活躍できる場を設定する。 学校全体を牽引できるリーダーシップ、フォロワーシップのみならず人間性を向上させる。 様々な場面で目標設定や振り返りを行わせ、共感的な人間関係を作り、自身の成長を実感させ、達成感を持たせる。	A					
第3学年	社会人として必要な資質を身に付けさせ、進路実現を図る。	個別指導や個人面談などの個に応じた指導を行い、適切に進路を選択できるよう働きかける。 ボランティア活動への積極的な参加を促し、社会貢献活動をすることによる自己有用感を高める。 進路指導部と連携し、各系統に応じた情報提供を生徒・保護者にも行う。	B	B	B	最大行事である体育大会を見据えて、日々指導してきた結果が、体育大会の成功に繋がった。生徒達は、自分の置かれたた立場を認識し、リーダーシップ・フォロワーシップを向上させ、人間性の向上に役立ったようである。また、その経験が、進路決定の際に自信に繋がって就職・進学試験に挑めたようである。 進路指導部と連携し、総探やHRを計画し生徒の進路実現に向けて指導できたことはよかった。また、担任や就職課・進学課、公務員対策における外部との連携ができ、生徒との面談・保護者の理解も得られ比較的スムーズに指導ができた。進路決定者がミスマッチではなかったことを期待したい。	A	なし
	最終進路を見据えた学力の向上と、授業に臨む姿勢・態度の育成を図る。	担任と教科担当、各分掌との連携を密に行い、生徒間の情報共有を徹底する。	A					
	教育活動全体を通して自尊感情を高め、最上級生として各々の個性を生かしてリーダーシップを発揮し、学校全体を牽引できる集団を育成する。	学校行事の成功を目指し、学年集会や諸行事の際に生徒の得意分野で主体的に活躍できる場を設定する。 学校全体を牽引できるリーダーシップ、フォロワーシップのみならず人間性を向上させる。 様々な場面で目標設定や振り返りを行わせ、共感的な人間関係を作り、自身の成長を実感させ、達成感を持たせる。	A					
	社会人として必要な資質を身に付けさせ、進路実現を図る。	個別指導や個人面談などの個に応じた指導を行い、適切に進路を選択できるよう働きかける。 ボランティア活動への積極的な参加を促し、社会貢献活動をすることによる自己有用感を高める。 進路指導部と連携し、各系統に応じた情報提供を生徒・保護者にも行う。	B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・本校教育活動の充実を図るため、観点別評価については、本校に適したものを継続して改善、検討していくこと
- ・授業改善が成功し、落ち着いた。一定の成果が出ており今後も継続してほしい
- ・今後も、個に応じた適切な支援に努め、生徒との信頼関係の構築を図り、進路保証の充実を目指してほしい
- ・地域と密接に連携した学校行事を企画し、生徒の育成を図ること
- ・女子生徒募集について案を検討し充実を図ること

評価項目以外のものに関する意見

体育大会は、生徒が整然としており教育改革の成果が見られた。グラウンド掲揚台のポールを増やせないか。普通は3本ある。